

令和4年度 和歌山大学 e-annual report

＜ダイジェスト版＞（分析コメント含む）

令和5年10月

目次

1. はじめに	P2
2. 入学時・入学直後の情報	
2-1 入学者選抜の状況	P3
3. 在学中の情報	
3-1 各授業科目における到達目標の達成状況	P7
3-2 学修時間	P11
3-3 教員一人あたりの学生数	P13
4. 卒業時・卒業後の情報	
4-1 学位の取得状況	P14
4-2 学生の成長実感・満足度	P17
4-3 進路の決定状況等の卒業後の状況（就職率や進学率等）	P21
4-4 卒業生からの評価	P22
4-5 卒業生に対する期待	P30

1. はじめに

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（平成30年11月26日中央教育審議会答申）において、高等教育改革の実現すべき方向性として

・高等教育機関がその多様なミッションに基づき、学修者が「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にし、学修の成果を学修者が実感できる教育を行っていること

などが掲げられ、「学修者本位の教育の実現」が謳われています。

和歌山大学においても、本学が有する強みと特色を生かして、「何を学び、身に付けることができたのか」という学修者本位の視点に立ち、自ら点検・評価（毎年度実施するモニタリング及び5～7年ごとに実施するレビュー）を行い、その結果をもとに教育改善に努めています。

点検・評価を行うためのデータ・情報のうち、学生の学修成果や大学全体の教育成果に関する情報について、『e-annual report』としてホームページで公表しています。公表に当たっては、「入学前・入学直後の情報」「在学中の情報」「卒業時・卒業後の情報」「その他の情報」に分類することで、情報の検索が容易となるよう工夫するとともに、ホームページでは最新データをご確認いただくことができます。当冊子は＜ダイジェスト版＞として年度毎に事項を抽出してとりまとめたものです。

<和歌山大学ホームページ：e-annual report>

https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/qualityassurance/index.html

2. 入学時・入学直後の情報

2-1 入学者選抜の状況

入学者選抜については、「入学者受入の方針」を定め、これに則して大学として求める資質・能力を有する者を入学者として適切に選抜しています。

和歌山大学学士課程 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

高等学校あるいはこれに相当する教育機関等における学習や活動を通して、次の知識・技能、能力、態度を有する人を求める。

(1) 知識・技能

・大学入学後の専門を学ぶための基礎となる知識・技能を有する人

(2) 思考力・判断力・表現力

・課題解決に取り組むための基礎となる思考力・判断力・表現力を有する人

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

・多様で広い知的関心を持ち、他者と関わって、主体的に学ぼうとする意欲や態度を有する人

・身につけた知識や技能を活用し、課題解決に取り組む意欲や態度を有する人

【入学後の期待】

入学時に求められる知識・技能、能力、態度をもとに、各学部・学環の専門教育及び教養教育を学修することができるレベルにまで資質・能力を高めることを期待する。

2. 入学者選抜の基本方針

各学部・学環の特性に応じて、求めている資質・能力を適切に評価することができる選抜方法により実施する。

全学の「入学者受入れの方針」に加え、学部等の学位プログラム毎にも「入学者受入れの方針」を定め、これに則して入学者を選抜しています。

(参考) 各学部の入学者受入れの方針

<https://www.wakayama-u.ac.jp/admission/admission-policy/index.html>

「入学者受入れの方針」に則した選抜が実施されているかを明らかにするため、入試方法の区分に応じた受験者数、合格者数及び入学者数等を以下に示します。

▶ 受験者数、合格者数、入学者数等について

一般選抜前期日程_実績一覧_学部別

学部	募集人員数	志願者数	志望倍率※1	受験者数	実質倍率※2	合格者数	合格率※3	入学者数	入学率※4
教育学部	90	225	2.5	191	2.1	100	52.4%	96	96.0%
経済学部	170	483	2.8	455	2.7	198	43.5%	174	87.9%
システム工学部	160	448	2.8	393	2.5	179	45.5%	166	92.7%
観光学部	60	166	2.8	138	2.3	67	48.6%	61	91.0%
社会インフォマティクス学環	20	115	5.8	100	5.0	34	34.0%	31	91.2%
合計	500	1,437	2.9	1,277	2.6	578	45.3%	528	91.3%

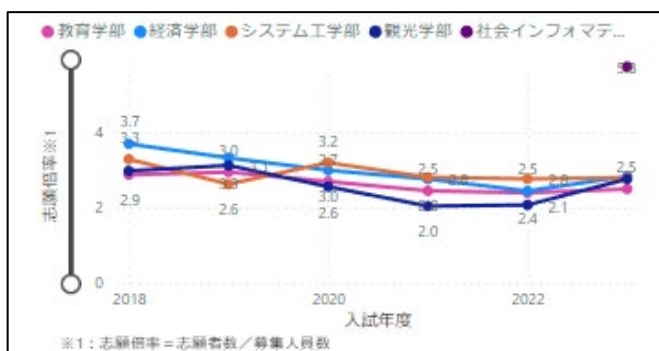
一般選抜後期日程_実績一覧_学部別

学部	募集人員数	志願者数	志望倍率※1	受験者数	実質倍率※2	合格者数	合格率※3	入学者数	入学率※4
教育学部	25	221	8.8	74	3.0	29	39.2%	23	79.3%
経済学部	80	1,088	13.6	473	5.9	112	23.7%	86	76.8%
システム工学部	100	702	7.0	321	3.2	151	47.0%	103	68.2%
合計	205	2,011	9.8	868	4.2	292	33.6%	212	72.6%

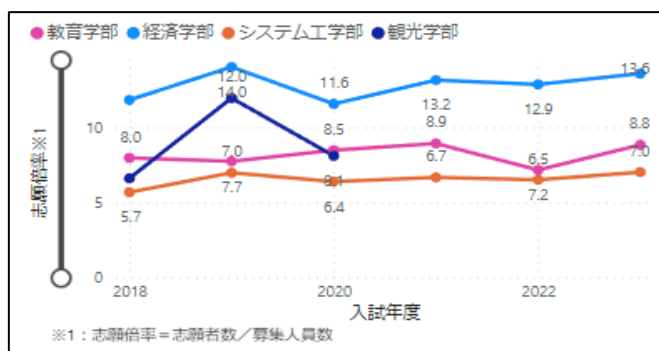
上表の各数値は、属性に該当する実数を表す。

- ※1：志望倍率 = 志願者数 / 募集人員数
- ※2：実質倍率 = 受験者数 / 募集人員数
- ※3：合格率 = 合格者数 / 受験者数 × 100 (%)
- ※4：入学率 = 入学者数 / 合格者数 × 100 (%)

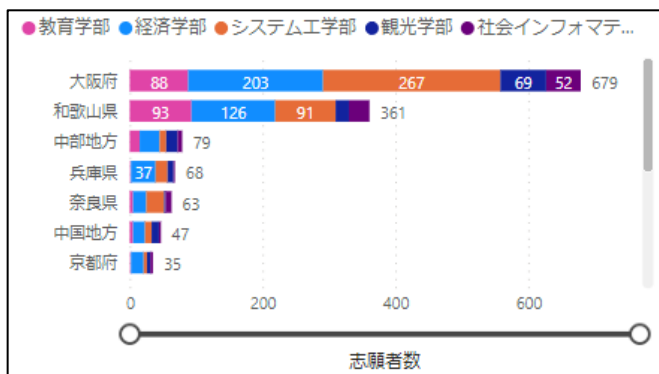
<一般選抜前期日程_志望倍率年間推移>



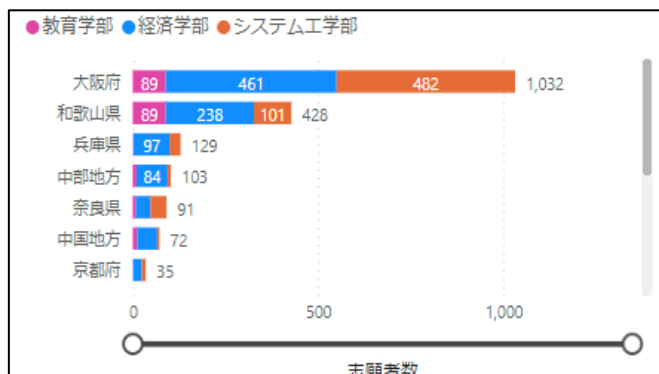
<一般選抜後期日程_志望倍率年間推移>



<一般選抜前期日程_志願者数>



<一般選抜後期日程_志願者数>



【分析状況】

大学全体の志願状況としては、少子化やコロナ禍の影響、早々の進路決定希望者の増加に伴い、指定校を含め私立大学への志願者が増えたことにより、共通テスト5教科7科目の受験者数が減少しているなどの影響を受け、一般選抜の志願倍率、特に前期入試の志願倍率は全体的に減少傾向にある。

他方で、地方大学の中には倍率が2倍を切るところも出てくる中、近年の本学の一般選抜の志願状況は、前期・後期を通して各学部・学環で志願倍率が2倍以上をキープしており、また2023年度入試では多くの学部において、前年度より一般選抜の前後期ともに受験者が増加している。そのため、今後の動向を注視しつつ、今後の入試体制について引き続き検討を行っていく必要がある。

高校訪問における懇談等での意見交換の状況などから考えると、本学のアドミッション・ポリシーに基づく多様な入学試験に対して概ね好評を得ていると思われる。引き続き大学全体として魅力を発信し、高校だけでなく高校生を対象としたアウトリーチについて今後検討し、入試・広報戦略の見直しが必要になる。

志願者の地域的な分布として大阪府の割合が多い。特に、経済学部・システム工学部の和歌山県内のニーズの掘り起こし、中国四国地方の国立大学志望者のニーズの掘り起こし等が考えられる。また教育学部は、和歌山県内の教員養成を担うという役割を鑑み、よりいっそうの県内からの志願者・入学者の掘り起こしが求められる。

<各学部等からの分析コメント>

学部等	分析コメント
教育学部	<p>e-annual report のデータより分析した結果、前期・後期とも和歌山県と大阪府からの志願者が半々である一方で、近年は近畿圏以外の地域からの志願者が増加傾向にあり、志願者倍率はほぼ横ばいである。地域における教員養成を担う学部として教員採用率及び小学校教員占有率の向上を目指し2016年度、2023年度入学者より推薦入試において地域枠を導入した。</p> <p>一般入試選抜においてもより一層の志願者増加のために、新カリキュラムのアクションタームなどの特色を入試広報等を中心に広く丁寧に説明していく。</p>
経済学部	<p>志願倍率では、一般選抜の後期日程が最も高く、概ね12倍～14倍の中で推移している。志願倍率の傾向としては上昇傾向にある。前期日程では、概ね2倍～3倍の中で推移しているが、傾向としては低下傾向ではある。しかし、国立大学全体で見ても、前期日程の志願倍率は同期間で低下傾向にあり、後期日程は概ね上昇傾向にあり、本学と同様の傾向となっている。</p> <p>ちなみに、2023年度は、ほぼすべての選抜において、志願倍率は前年度と比べて上昇しており、この点について、今後の動向を注視する必要がある。</p>

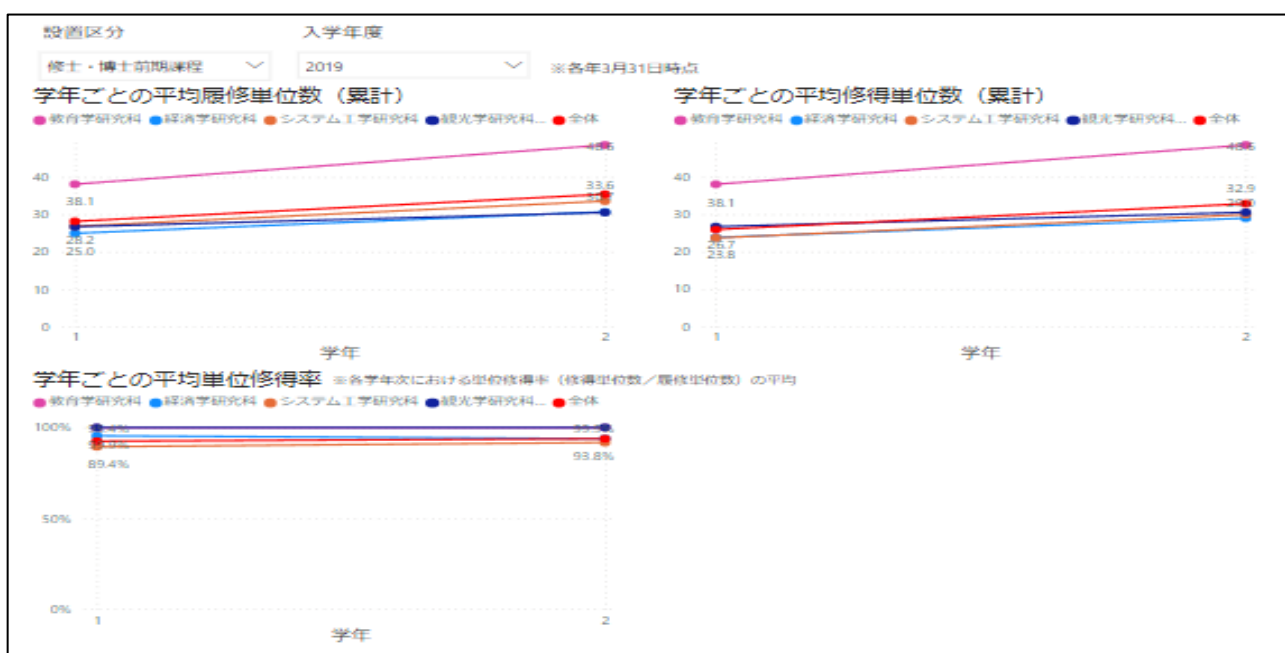
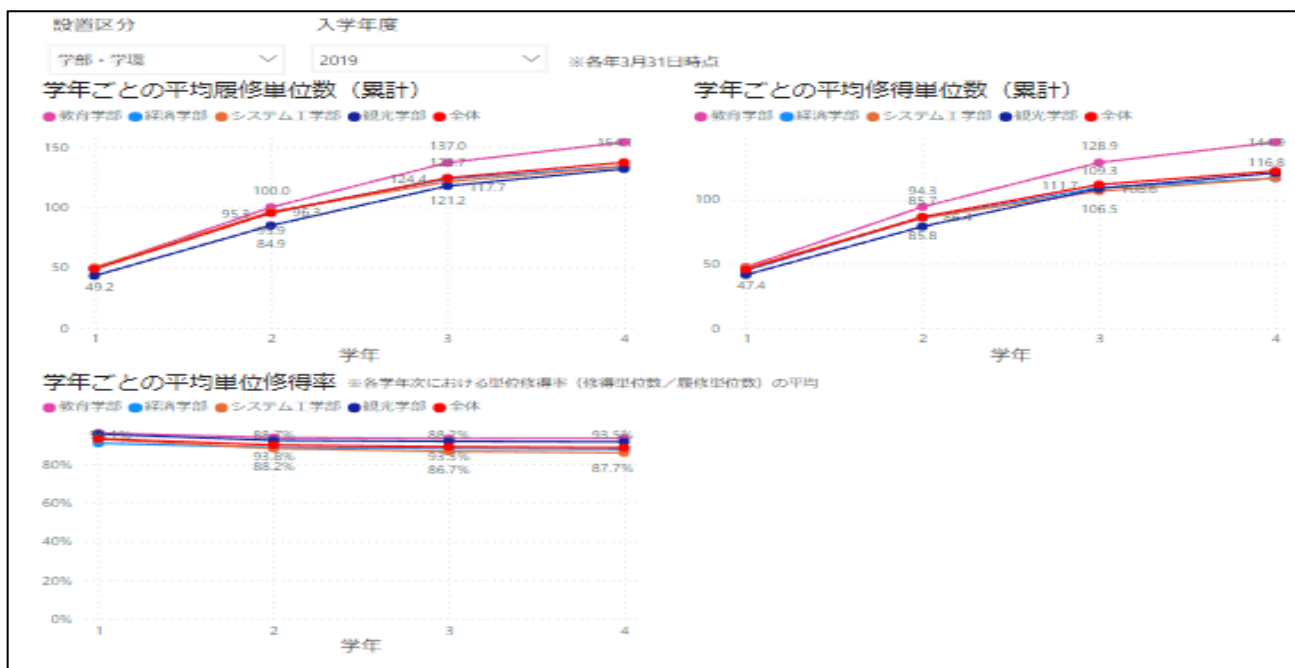
学部等	分析コメント
システム工学部	<p>シス工後期日程の入学率は、中期日程（大阪公立大学）の併願の影響をうけて、他学部 비해低い傾向である。シス工の場合、前期日程、後期日程ともに志願倍率の推移に大きな変化は見られない。地域別の志願状況をみると、シス工では、大阪府からの志願者が多く、和歌山県内からは少ないことがわかる。これは、和歌山県内の高校において、理系クラスが少ないことが原因の一つと考える。加えて、大阪府南部の地域の高校に通う高校生からみて、シス工が自宅から通える国立大工学系学部として認知されていることが伺える。</p> <p>受験者数、合格者数、入学者数等および地域別志願者数の表について、男女別の数字がわかると、地域別男女比や男女別合格率など、また違った分析が行えると考えられる。</p> <p>過去5年間の入学者数の推移（302～330）なので、もう少し変動を小さくする工夫が必要である。</p>
観光学部	<p>2020～2022年度入試にかけて志願者数・実質倍率が大きく減少している。観光学部では2021年度から一般選抜の後期日程を廃止し、前期日程および特別選抜に定員を振り替えているため、その影響も考慮する必要はあるが、むしろコロナ禍による人々の社会活動の変化、および観光関連産業に対する認識の変化が影響したものと考えられる。また、コロナ禍がひとまず落ち着いた2023年には回復傾向が見られている。現在、在学者の動向・学修状況等を分析し、今後の入試広報や入学選抜の改善に活かすべく対応を進めている。</p>
社会インフォマティクス学環	<p>社会インフォマティクス学環は、令和5年度より新設されたため、令和4年度は、大学主催の説明会以外にも、和歌山県内、県外の高等学校にも直接訪問し、積極的な広報活動を実施した。結果として、一般選抜前期日程 募集人員 20名に対して、志願者数 115名を確保することができた。ただし、これについては、新設効果であることも大きいといえる。今後も、本学環を社会に周知できるよう積極的に広報活動を実施していきたい。</p>

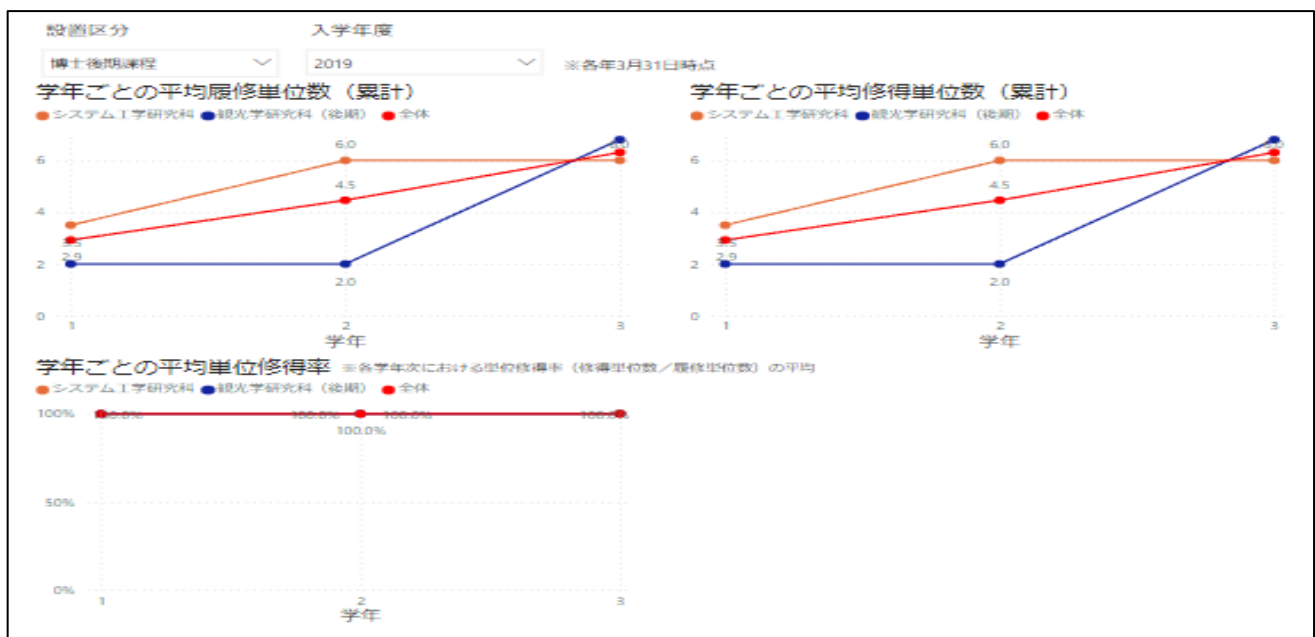
3. 在学中の情報

3-1 各授業科目における到達目標の達成状況

学生が、個々の授業科目の履修の結果として「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を獲得してゆく過程の全体的な状況を明らかにするため、入学年度別・年度毎の単位修得状況等を以下に示します。

▶ 入学年度別・年度毎の平均履修（修得）単位数について





【分析状況】

複数免許取得等の理由のため、4年間の修得単位数が非常に多い教育学部は、1単位あたりの学修時間を確保できている状況とは見なしがたい。すべての学部において、1単位あたりの学修時間を確保した単位の実質化を図っていくためのカリキュラム編成が求められる。

一方、2年次以降、平均単位修得率が90%を下回る学部が存在する。各学部で学生の単位修得率の分布を検討するなど、その原因を調査し、授業の履修等に問題を抱える学生がいないか等を確認することが求められる。

<各学部等からの分析結果>

学部等	分析コメント
教育学部	e-annual report のデータより分析した結果、他の3学部と比べて平均履修単位・平均修得単位とも高い傾向にある。CAP制があるが卒業要件としての免許取得単位に加え、卒業後の就職（主に教員）を見通すなかで目標を明確に定めつつ副免許取得の単位を取得する傾向があり上記の結果につながったと考えられる。今後は単に単位取得のみを目指すのではなく学習内容をより深く理解するよう指導を行いたい。
経済学部	平均単位修得率は、学年が進むにつれてわずかであるが低下する傾向にある。カリキュラムは、年次進行により修得する内容が専門化・高度化するよう構成されているので、その実態がデータに現れていると考えられる。 平均修得単位数でみると、4回生の時点で卒業に必要な124単位に8単位程度不足している。一定程度の留年生が生じることと、卒業が認定される多くの学生の最終的な修得単位数が124単位であることによるものと考えられる。

学部等	分析コメント
システム工学部	<p>システム工学部では平均単位修得率が 90%を下回っているが、これが必ずしも学部全体の質や学習意欲の低下を示すものではないと考えている。</p> <p>工学部は実験や実習が多いため、座学だけでなく、実際の実技を要求される場面も多い。そのため、単位修得率が少し低くても、学生が実践的な能力や技術を身につけている。具体的は、実習や演習の単位修得状況は、講義の単位修得状況に比べて高い。</p> <p>システム工学部のカリキュラムは他の学部と比べて、体系的な学修を要求されるものが多く、内容の不十分な理解がある場合には、単位を取得するのが難しくなる場面もあり、平均単位修得率が 90%未満というのはその状況を反映していると考えている。</p> <p>なお、多くの学生は 4 年間で卒業要件を十分にクリアできており、平均単位修得率が 90%前後は、比較的健全な状況であると考えている。</p>
観光学部	<p>学年ごとの平均履修（修得）単位数の推移を見ると、3 年次までは単位数が少なめとなる傾向がある。</p> <p>また、平均単位修得率は他学部と比較して平均的な水準にある。これらは、CAP（履修単位数の上限）の設定をやや厳しめに設定していることを反映しており、狙いどおりの結果が出ていると考えられる。</p> <p>一方で、卒業に必要な単位数までしか履修・修得しない学生も多く、GPA への影響を心配する学生の声も聞かれることから、目先の GPA よりも、自らの知的関心に応じて科目履修に積極的にチャレンジできる方策の検討が必要だと考えられる。</p>
教育学研究科	<p>e-annual report のデータより分析した結果、教職実践力を獲得するという学習の目標が明確であるため集中して単位取得に向かうことが出来た。さらに約半数が現職教員（県派遣等）であり現任校での課題が明確で、それに対する解決策を導き出すため自律的かつ積極的に学習に取り組んだ。加えてカリキュラム上、現職とストレートマスターとの共同の学びが多く設定されており相互に学びを高め合う仕組みがあった。今後はアンケート結果に見られるように高い平均履修単位・平均修得単位を維持するよう引き続き取り組みを進めていきたい。</p>
経済学研究科	<p>ほとんどの学生が、1 年次に専門科目の単位を修得し、2 年次は修士論文に対する単位修得のみを残しているという実態が各年次の平均修得単位数に現れている。また、その単位数から 1 年次の学修は順調であると言える。</p> <p>一方で、平均単位修得率が学年進行とともにわずかに低下している点は、修士論文の提出に至らない場合があることを示している。引き続き、学習者の主体的な学びを支える環境の維持に努める。</p>

学部等	分析コメント
システム工学研究科	<p>ほとんどの学生が適切に履修計画を組んでいるため、単位修得率も高いことがわかる。また、研究科においては、学部のカリキュラムとは大きく異なるアプローチが採られている。具体的には、主要な講義科目に関しての単位は、一年次の終わりまでにほとんどの学生が修了しているのが特徴である。これにより、二年次に入ると、修士論文の研究に大きく重みがるため、取得単位数はあまり増加していない。</p>
観光学研究科	<p>博士前期課程・後期課程とも、授業科目の年次配当どおりの履修（修得）単位数となっており、特に目立つような傾向はない。今後、各課程でのカリキュラム改善にあたり、年次配当のバランスを見直す必要があるかどうか検討する必要がある。</p>

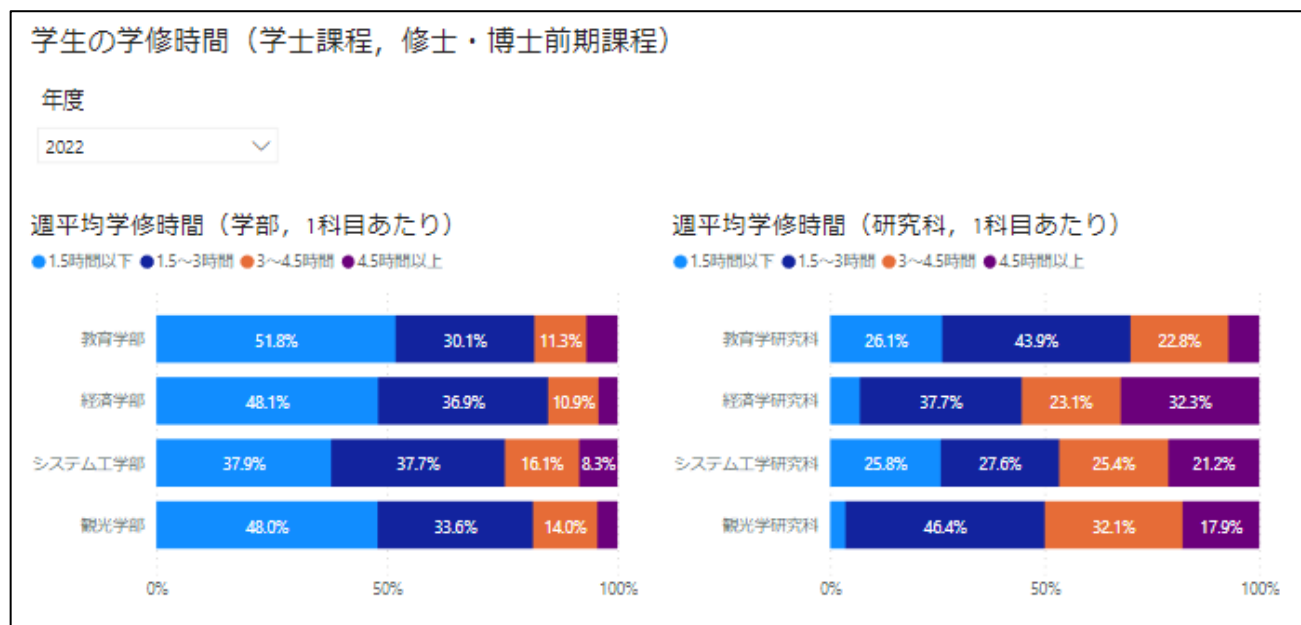
3-2 学修時間

学生が、学位プログラムが期待する水準の資質・能力を身に付けるための一般的な前提条件を満たしているかを明らかにするため、学生が授業内及び授業外で取り組む学修の平均時間を以下に示します。

▶ 学修に費やした時間の平均値及び分布について

・各学期に実施されている授業評価アンケートより

「この授業に関する通常授業期間の学修時間（授業時間を除く、1週間あたりの平均）」について



・令和4年度前期・後期 授業評価アンケート「授業に関する通常授業期間の学修時間について」より集計

【分析状況】

修得単位数が多い教育学部は、1科目あたりの学修時間が1.5時間以下の学生が51.8%と多い。また累積単位数が少なめに推移している観光学部でも、1科目あたりの学修時間が1.5時間以下の学生が48.0%と教育学部と変わらない多さである。1単位時間の実質化を図るため、moodle や teams などの学修支援システムを活用すること、予習復習を組み込んだ授業構成やカリキュラム構成を大学全体で保証する等のFDを実施していく必要がある。

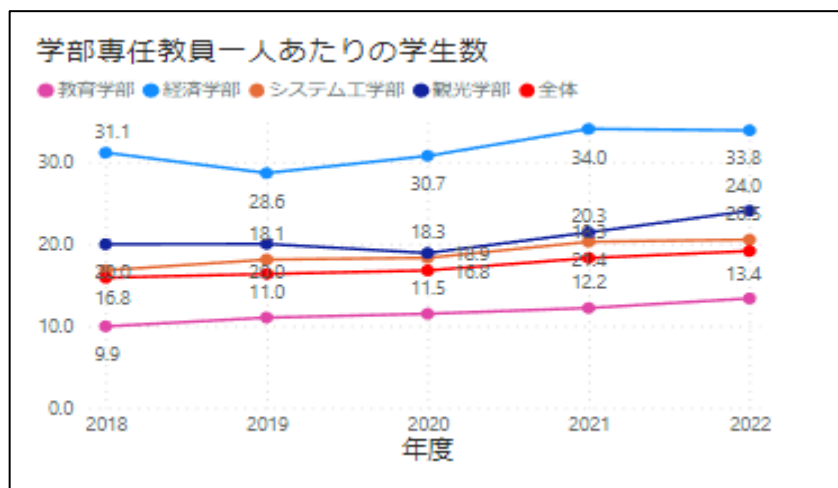
CAP制と学生の学修時間との関係について、さらなる調査をすることが求められる。例えば、1.5時間以下の学生の履修科目と3時間以上の学生の履修科目に違いがあるのかなどを今後分析していく。

<各学部等からの分析結果>

学部	分析コメント
教育学部	e-annual report のデータより分析した結果、教育実習など座学以外の学修活動が多く他学部に比べて学修時間がやや少なくなっている。今後は年度始めの学年全体ガイダンスや初回授業でのオリエンテーション等、さらにゼミ活動において大学設置基準に示されている適切な学修時間の確保に努めるよう学部教員による指導を徹底する。
経済学部	2021 年度において週平均学修時間 1.5 時間以下が 100% (3 時間以上 0%)、2022 年度において 1.5 時間以下が 48.1%、3～4.5 時間が 10.9%、4.5 時間以上が 4.1%となっている。1 科目当たり週 3 時間 (以上) の基準を満たすのが 15.0%にとどまっている。一方で、1.5 時間以下と答えた者の割合は低下している。学習支援システムを活用するなど、授業時間外での学びの方法を検討する。
システム工学部	平均的に 1 科目あたりで週 2 時間程度の学習 (授業時間を除く) が行われている。この時間だけでなく、試験勉強 (多くの講義では単位認定試験を実施) などの時間も考慮に入れると、1 単位におおよそ 45 時間相当の学修を行っていると考えられることもできるが、CAP 制の主旨からは平均的に毎週の学修時間を確保させることが望まれる。今後は、1.5 時間以下、1.5～3 時間の学生の学修時間を増やす工夫をするとともに、過度に時間がかかっている学生への対応も必要であると考えている。
観光学部	1 科目あたり週平均学修時間について、学生の 48%が 1.5 時間以下、34%が 1.5～3 時間と回答しており、3 時間以上の学修時間を確保している学生は 18%に過ぎなかった。今後、学習支援システムの活用も含め学生の学修時間の確保について意識づけを高めていく必要がある。
教育学研究科	e-annual report のデータより分析した結果、インターンシップ科目や授業実践実習など学校現場に向向く科目があったため回答での学修時間が少なかったものと考えられるものの、学部における課題と同様に大学設置基準に照らし適切に指導を行う。
経済学研究科	週平均学修時間は、2021 年度において 1.5 時間以下が 0%、3 時間以上が 37.5%となっている。2022 年度において 1.5 時間以下が 6.9%、3 時間以上が 55.4%となっている。3 時間以上の学修者の割合が高くなる一方で、1.5 時間以下の学修者が現れている点を、今後、注視していきたい。
システム工学研究科	平均的に 1 科目あたり 3 時間程度は学習していることがわかった。比較的良好に学習しているように思われる。システム工学研究科は、学部と異なり、学修が研究主体となるため、学修時間の分析は特に重要ではないと考えている。
観光学研究科	半数強の学生が 1 科目あたり 3 時間以上の週平均学修時間を確保しており、学修時間の観点では十分な水準にあると考えられる。

3-3 教員一人あたりの学生数

学生数に対して十分な教員を確保することで、密度の濃い授業や丁寧な履修指導が可能な環境であることを明らかにするため、学生数に対して十分な教員を確保していることを以下に示します。



4. 卒業時・卒業後の情報

4-1 学位の取得状況

学生が、個々の授業科目の履修の結果として、「卒業認定・学位授与の方針」に定める資質・能力を備えていることを明らかにするため、学生が取得した学位に関する情報を以下に示します。

▶ 学位の名称と授与者の数について

・年度ごとの学位取得者数（各年度末日 3/31 時限）

<学部・学環>

▲ 学位	2018	2019	2020	2021	2022
学士（教育学）	144	165	170	164	167
学士（経済学）	344	321	325	324	319
学士（工学）	306	299	306	327	312
学士（観光学）	120	110	120	128	105
合計	914	895	921	943	903

<修士・博士前期課程>

▲ 学位	2018	2019	2020	2021	2022
教職修士（専門職）	14	17	19	24	18
修士（経済学）	34	19	35	36	38
修士（工学）	138	125	127	120	136
修士（観光学）	11	8	12	10	11
合計	197	169	193	190	203

<博士後期課程>

▲ 学位	2018	2019	2020	2021	2022
博士（工学）	5	5	6	5	2
博士（観光学）	3	2	6	6	2
合計	8	7	12	11	4

【分析状況】

概ね、入学者の数と同等の卒業者が出ているので順調と考えられる。観光学部の2022年度卒が少ないのは、コロナ禍の影響をもっとも大きく受けた学年の学生であり、海外留学等の機会を逃した学生が意識的に卒業を延期している事例もあることから、これらが影響していると推測される。今後も、経済状況を勘案しつつ学生へのキャリア支援を実施していく必要がある。また、過年度生への指導・支援体制についても各学部・研究科への点検を依頼していく。

<各学部等からの分析結果>

学部／研究科	分析コメント
教育学部	e-annual report のデータより分析した結果、入学定員に鑑み年度ごとの僅かな増減はあるものの妥当な数字であると考えられる。
経済学部	当該年度の入学者数とそれ以前の留年者数の影響を受けるものの、ほぼ入学定員に相当する学生に学位を授与している。
システム工学部	学位取得数よりも学位取得率が重要である。 5年間の取得率が79.7～83.8%の間で変動しているため、質を維持していると思われる。 一方で、学位の質が確保できているかを分析する必要がある。
観光学部	従来から学位取得者数は年度ごとに増減があり、主な要因として、海外留学等を理由に休学する学生の存在があげられる。また、2022年度の卒業生は減少幅が特に大きくなっている。コロナ禍の影響をもっとも大きく受けた学年の学生であり、海外留学等の機会を逃した学生が意識的に卒業を延期している事例もあることから、これらが影響していると考えられる。
教育学研究科	e-annual report のデータより分析した結果、入学者数に鑑み年度ごとの僅かな増減はあるものの妥当な数字であると考えられる。
経済学研究科	2019年度を除き、ほぼ入学定員に相当する学生に学位を授与している。 2019年度の取得者数が少ないのは、当該年度の修了対象者になる2018年度の入学者数(24人)が入学定員38人を充足しなかったことに起因する。
システム工学研究科	学位取得数よりも学位取得率が重要である。 前期：5年間の取得率が85.9～90.6%の間で変動しているため、取得率の変動が5%ほどで小さく、研究者育成が一定のレベルで継続して行われていると考えられる。取得率が100%にならないのは、学生自身に問題があることも一因として考えられ、早い段階でケアが必要な学生を発見するような体制が必要だと考えられる。 後期：5年間の取得率が30～62.5%の間で変動しており、研究者育成の取り組みにおいて、さらなる安定性や向上を目指す必要がある。 後期課程に関しては、定員充足できていない。社会情勢の影響もあるが、後期課程進学が魅力あるものに見えるような工夫が必要だと考えられる。

学部／研究科	分析コメント
観光学研究科	<p>博士前期課程の学位取得者数は平準化されているが、博士後期課程については年度ごとのばらつきが大きい。今後は、後期課程の学位取得者数を高い水準で安定させるため、学生に対するコンサルテーション等の機会を増やすよう対応していく必要がある。</p>

4-2 学生の成長実感・満足度

学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められたそれぞれの資質・能力をどの程度身に付けられているか等に関する学生の主観的な評価を明らかにするため、また、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の育成に関してどのような評価を受けているのかを明らかにするため、卒業・修了者を対象にアンケートを実施しています。令和4年度からは全学統一のアンケート項目とし、「卒業認定・学位授与の方針」に対しての認知度・達成度・感想等についてアンケートを実施しました。結果の概要は以下のとおりです。

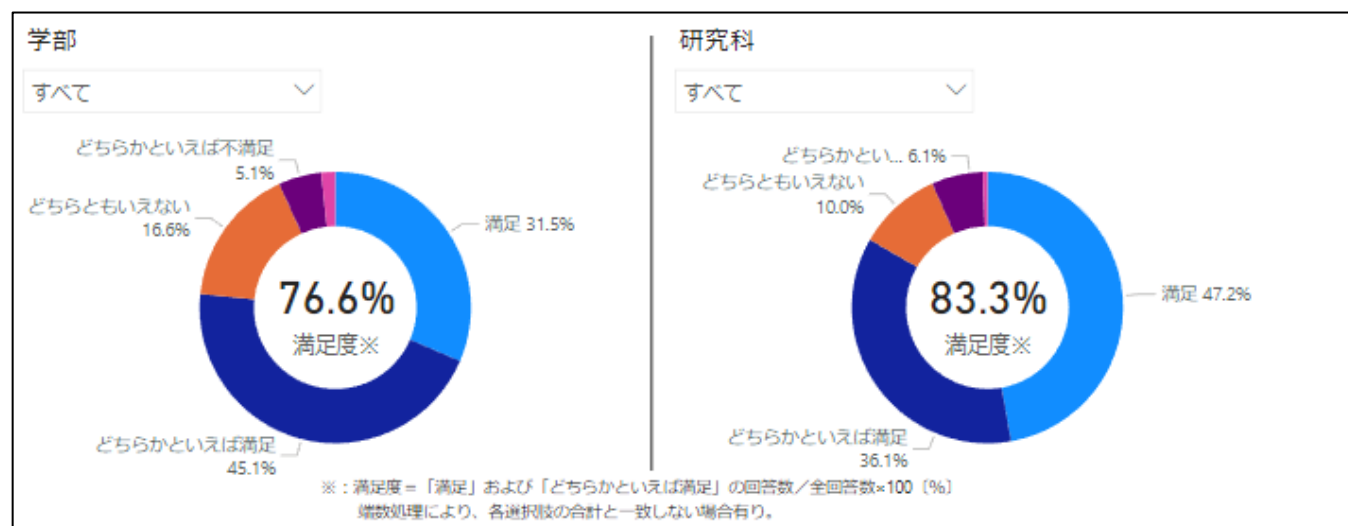
実施期間：令和5年1月～2月

実施方法：moodleのアンケート機能にて実施

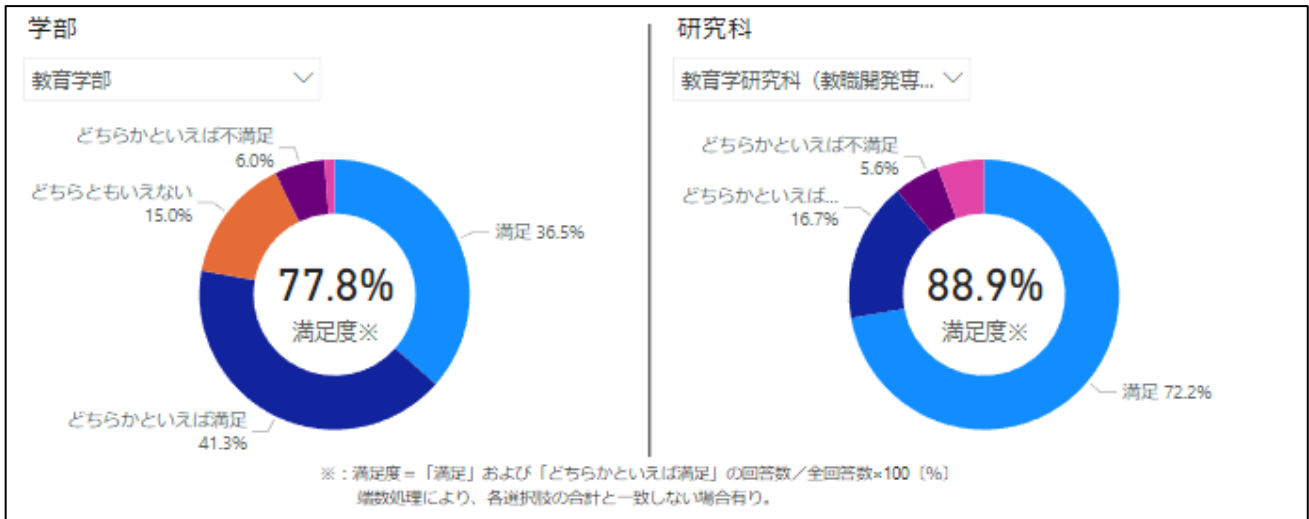
回答率：全体82.9%（卒業・修了者1,167名中967名回答）

教育学部	100%
経済学部	95.8%
システム工学部	70.6%
観光学部	53.4%
教育学研究科（教職開発専攻）	100%
経済学研究科	100%
システム工学研究科（博士前期課程）	81.1%
観光学研究科（博士前期課程）	81.8%
システム工学研究科（博士後期課程）	66.7%
観光学研究科（博士後期課程）	50.0%

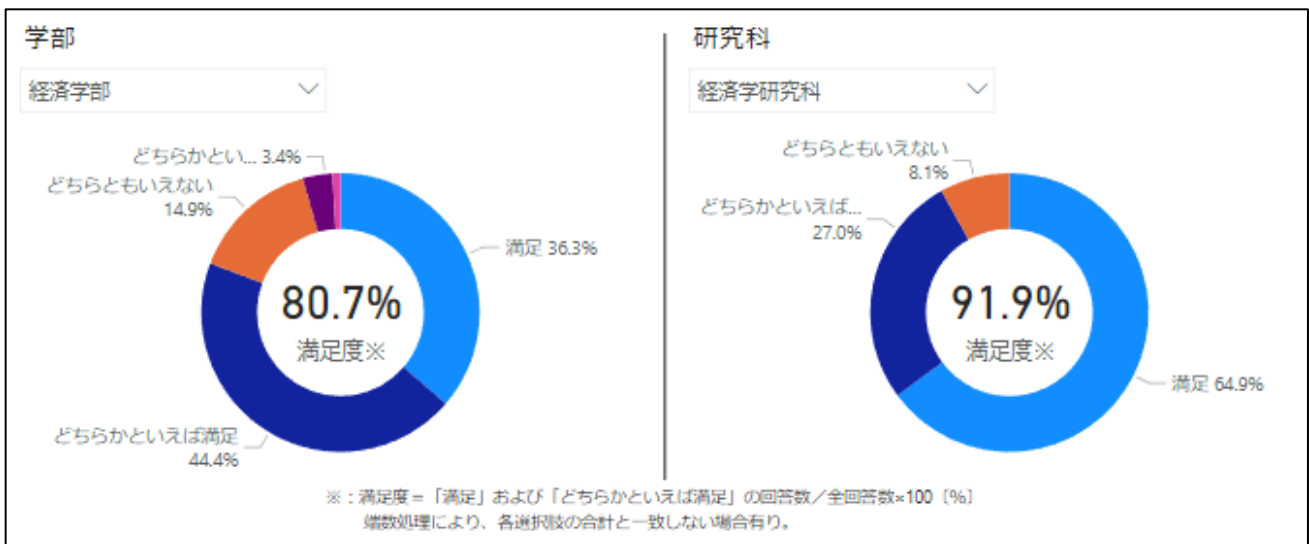
▶ 和歌山大学での教育内容全体の満足度について



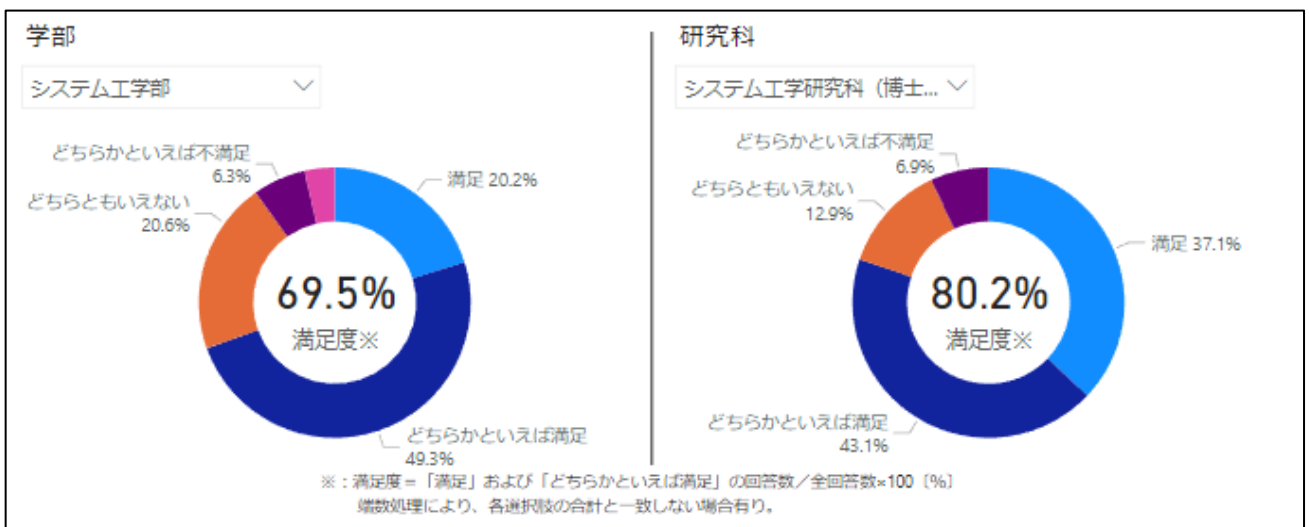
<教育学部・教育学研究科>



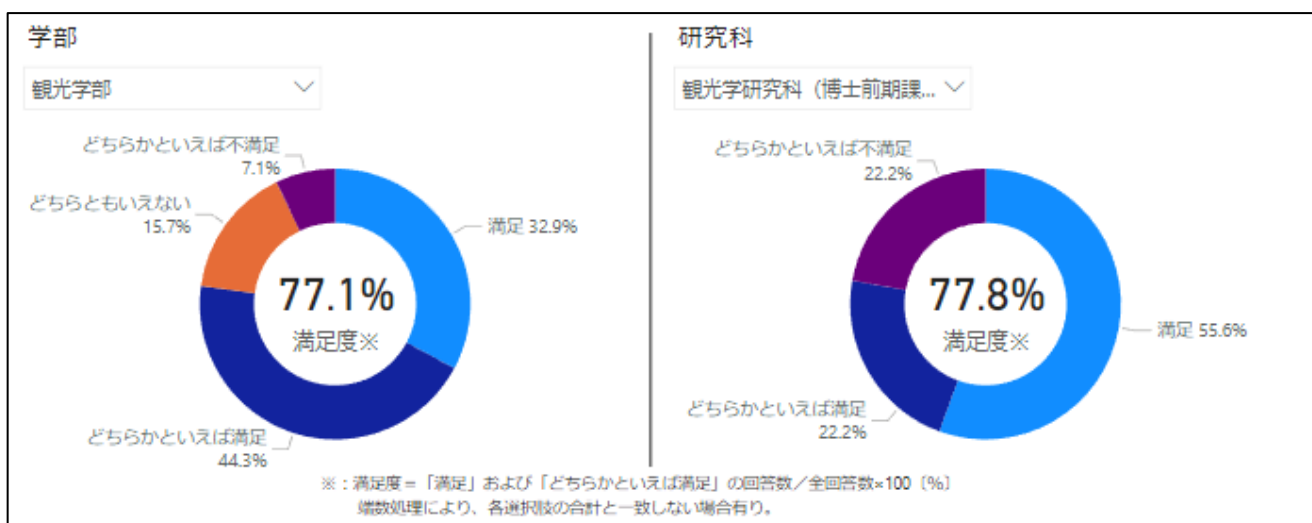
<経済学部・経済学研究科>



<システム工学部・システム工学研究科>



<観光学部・観光学研究科>



【分析状況】

7割以上が「満足」または「どちらかといえば満足」という回答であった。充実が望ましい内容として、「授業等の教育活動」と「研究室・ゼミナールの活動」が挙げられており、今後も教育活動の改善を図っていくことが重要である。特に DP に含まれる「主体性」と「コミュニケーション力」の育成については、アンケートでは部活動やサークルで育まれたと回答する学生が多く、授業やゼミナールなどでの育成が課題と考えられる。

<各学部等からの分析結果>

学部／研究科	分析コメント
教育学部	e-annual report のデータより分析した結果、回答率 100%である。教員免許取得が卒業要件となっているため学生が学びに向かう意識は高く、また卒業（教員免許取得）までのプロセスが充実していることから満足度は平均以上と高めである。今後は教育活動における学生の満足度をさらに高められるよう授業内容やゼミ活動の充実をはかる。
経済学部	「満足」および「どちらかといえば満足」の回答数を合わせた割合が 80.7%であり、多くの学部生が卒業時に満足を感じていると判断できる。ただし、充実が望ましい内容として「授業等の教育活動」、「研究室・ゼミナールの活動」の回答数が多いため、具体的に何に課題があるのかを今後検証していく必要がある。
システム工学部	アンケート調査の信頼度を高めるために、アンケートの回答率を 100%にする工夫が必要である。満足度が大学全体に比べ低い。 充実が望ましい内容として、「研究室・ゼミナールの活動」「授業等の教育活動」の回答数が多い。 これらの点について、講義科目なのか、実験・演習科目なのか、また学部設備なのかなど、満足度 80%以上になるように、具体的に何に課題があるのかを今後検証していく必要がある。

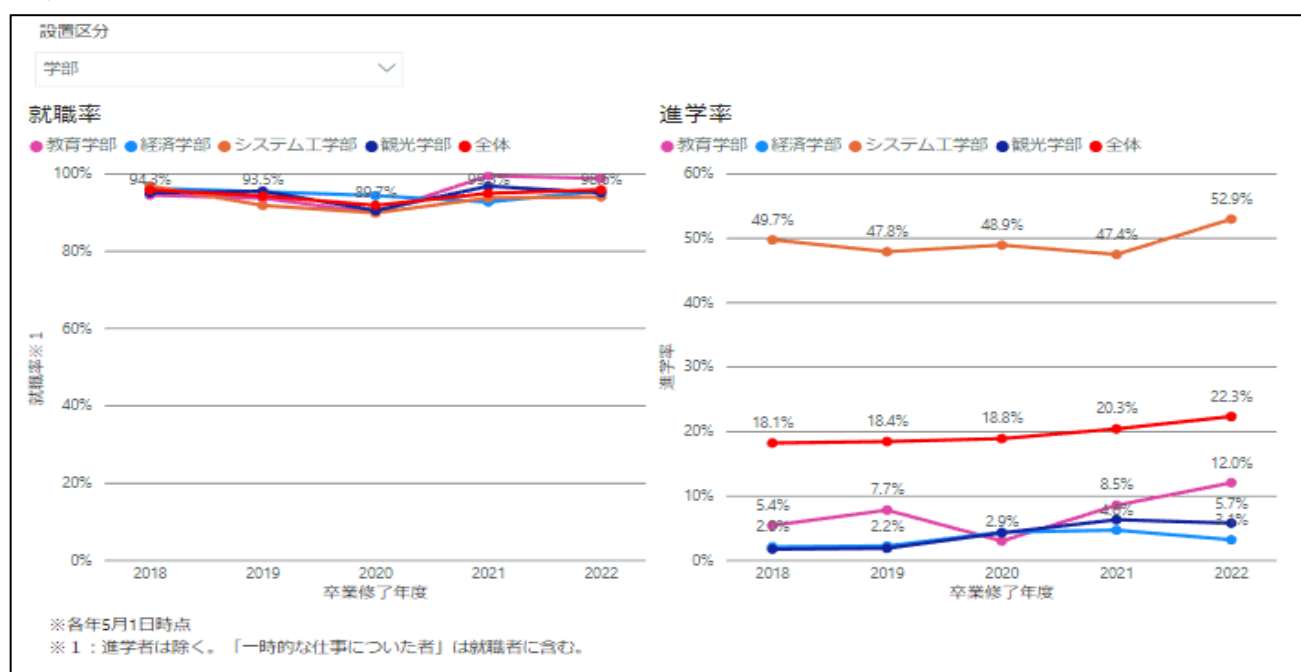
学部／研究科	分析コメント
観光学部	<p>e-annual report より分析した結果、教育内容への満足度は 77.1%であり、中期目標の 80%を若干下回っている。観光学部の学生に特に目立つ傾向としては、「充実が望ましい内容」として海外留学や地域貢献活動をあげている点があり、これらの活動がコロナ禍の影響で強く制限されていた学生が回答者だったことが影響していると考えられる。今後は、コロナ禍以前のような活発な学外活動ができるようサポートを充実させる必要がある。</p> <p>加えて、アンケートの回答者数を向上させる方策として、指導教員を通じた周知等を強化していく必要がある。</p>
教育学研究科	<p>e-annual report のデータより分析した結果、回答率 100%である。修了と同時に教員免許（専修免許）が取得できるカリキュラムとなっているため院生が学びに向かう意識は高く、また修了までのプロセスが充実していることから満足度は平均以上と高めである。</p>
経済学研究科	<p>「満足」および「どちらかといえば満足」の回答数を合わせた割合が 91.9%であり、多くの大学院生が卒業時に満足を感じていると判断できる。ただし、充実が望ましい内容として「研究室・ゼミナールの活動」、「授業等の教育活動」の回答数が多いため、学部生と同様、具体的に何に課題があるのかを今後検証していく必要がある。</p>
システム工学研究科	<p>アンケート調査の信頼度を高めるために、アンケートの回答率を 100%にする工夫が必要である。</p> <p>満足度が大学全体に比べ低い。</p> <p>充実が望ましい内容として、「研究室・ゼミナールの活動」「授業等の教育活動」の回答数が多い。これらの点について改善が必要と考えられる。</p>
観光学研究科	<p>他の研究科と比較して満足度が低い値となっている。学生がより高い成長実感を得られるよう、現在進めているカリキュラムの見直しにこの意見を反映させる必要がある。また、アンケートの回答者数を向上させる方策として、指導教員を通じた周知等を強化していく必要がある。</p>

4-3 進路の決定状況等の卒業後の状況（就職率や進学率等）

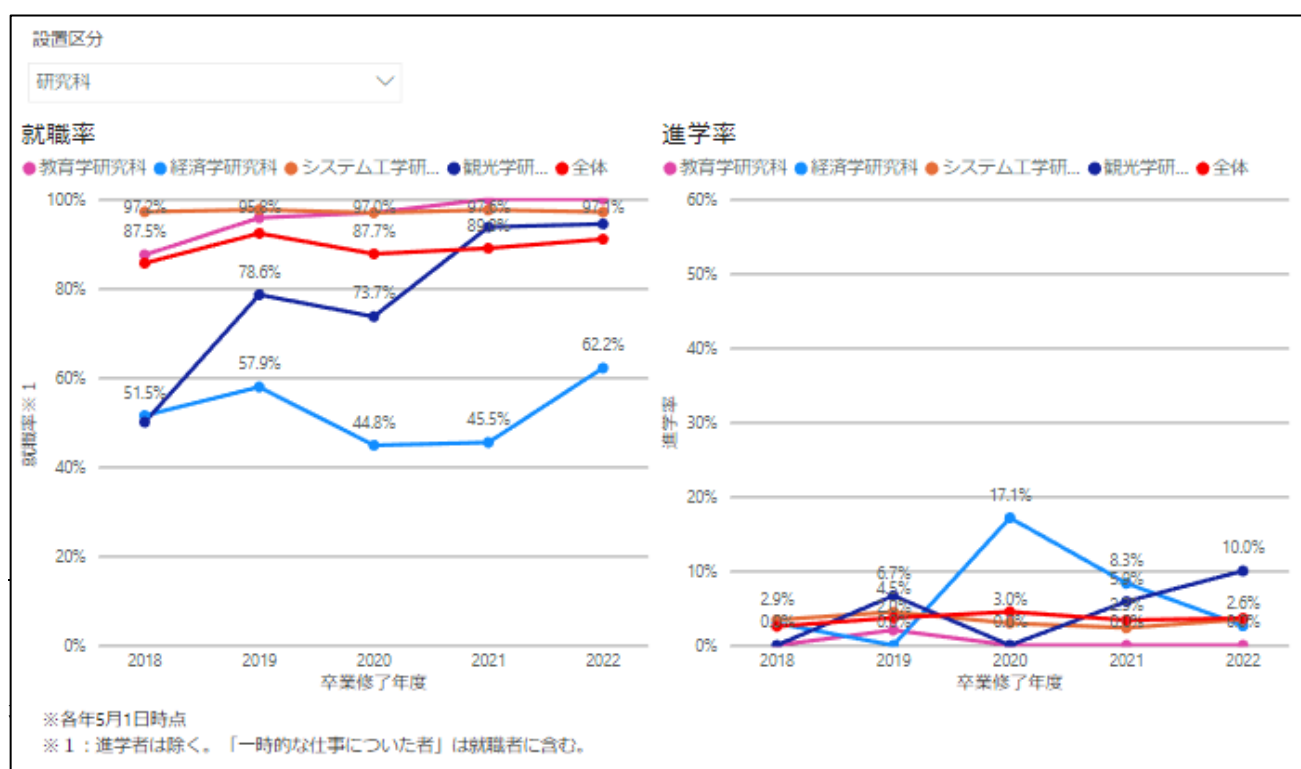
大学が、就職や進学等を希望する学生に対して進路を保証できているかを明らかにするため、卒業生・修了生の就職率及び進学率を以下に示します。

▶ 卒業生・修了生の進路状況について

<学部>



<大学院研究科>



4-4 卒業生からの評価

学位プログラムを通じて身に付けた資質・能力が、進学先や就職先でどのように役立っているかを、進学・就職から一定期間経過した卒業生からの評価により明らかにするため、アンケートを実施しています。令和4年度に実施したアンケートの概要については、以下のとおりです。

アンケート対象：平成31年度卒業生・修了生（卒業・修了から3年経過）

実施期間：令和5年1月1日～1月31日

実施方法：はがき郵送による案内、アンケートフォームによる回答

回答率：11.5%（卒業者数からはがき未着数を除いた数を分母とした）

アンケート対象：令和3年度卒業生・修了生（卒業・修了から1年経過）

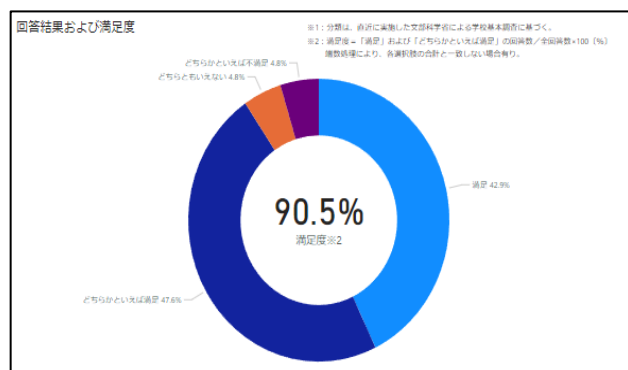
実施期間：令和4年12月27日～令和5年1月31日

実施方法：COCOアカウントへのメールによる案内、アンケートフォームによる回答

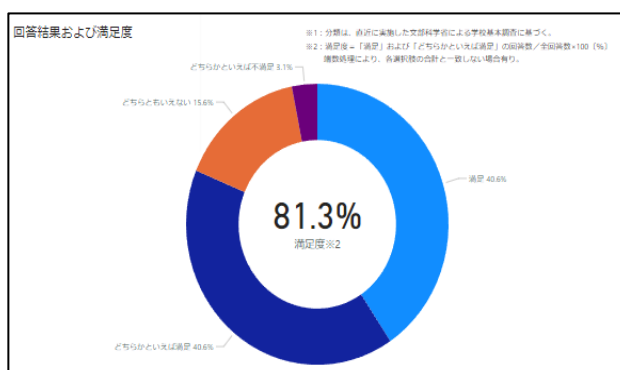
回答率：5.1%（COCOアカウントへの登録数を分母とした。登録率は46.3%）

▶ 和歌山大学の教育内容全体に対する満足度について

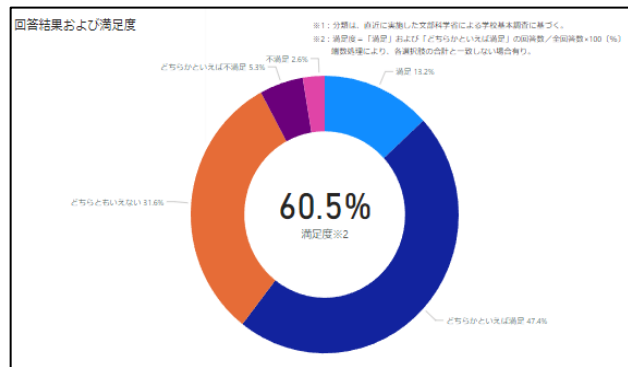
<教育学部>



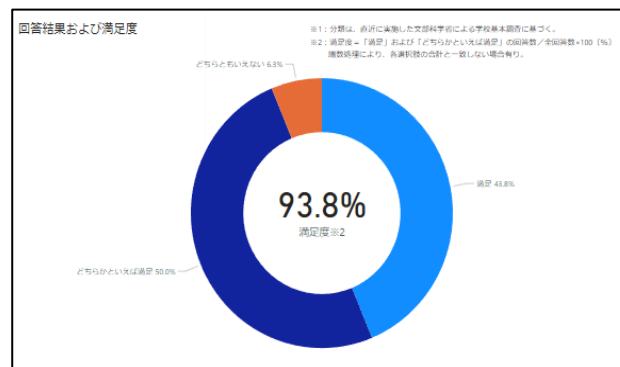
<経済学部>



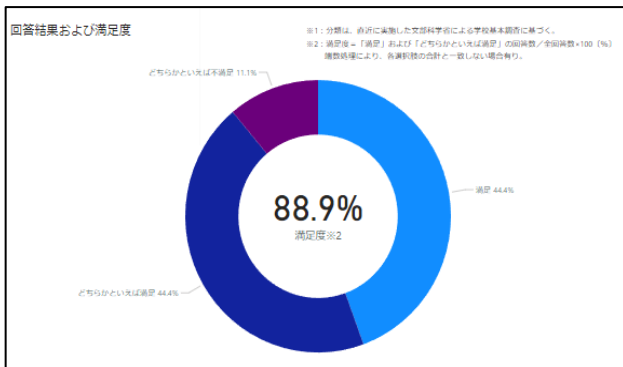
<システム工学部>



<観光学部>



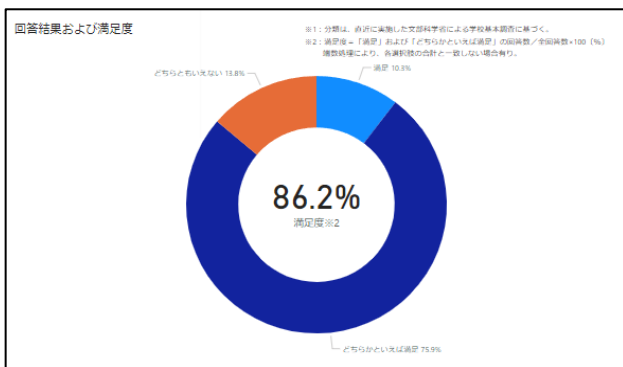
<教育学研究科>



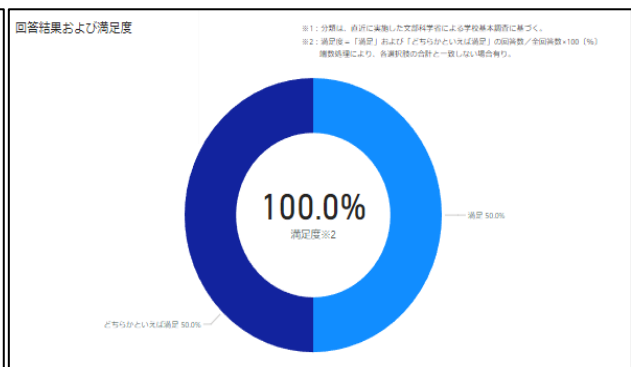
<経済学研究科>



<システム工学研究科>



<観光学研究科>



【分析状況】

回答者数がすくないため、今後、回答者数を増やす努力をしていくことが、まず課題となる。(学生への周知、同窓会組織の活用など) 回答数が増えれば、修了から3年後と修了から1年後の回答結果を比較してより詳細に分析したい。

回答者数が少ないため、結果の妥当性を欠く可能性は十分にあるが、卒業時と卒業後のアンケートにおける満足度を比較すると、教育学部 (77.8% / 90%)、経済学部 (80.7% / 81%) システム工学部 (69.5% / 60%) 観光学部 (77.1% / 93%) となっている。卒業後に満足度が高くなっている教育学部と観光学部、卒業後に満足度が低くなっているシステム工学部という結果が、なぜ生じているのか。今後、分析が必要である。

<各学部等からの分析結果>

学部／研究科	分析コメント
教育学部	e-annual report のデータより分析した結果、学校教員に就職した学生の満足度は100%であるが、他の業種を進路とした場合に満足度は低下する。目的養成の学部でありやむをえないところもあるが、今後は他の業種を進路とする学生に対しては科目の履修を通して身に付けた力を教員以外の業種であっても生かせる等キャリアガイダンスのなかで適切に指導を行う。

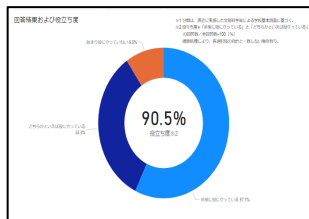
学部／研究科	分析コメント
経済学部	<p>回答数が少ないため、分析・コメントには限界があることは前提であるが、以下のように解釈できる。</p> <p>「満足」が50%、「どちらかといえば満足」が50%であった。和歌山大学での教育内容について回答している者は満足していることがわかった。</p>
システム工学部	<p>アンケートの回答率が低いので、満足度の割合だけでは分析するのが難しい。</p> <p>満足度が60.5%と低い（製造業に就職した学生の満足度が特に低い22.2%）。</p>
観光学部	<p>卒業生の教育内容全体に対する満足度は高い水準にあり、今後もこのような評価を維持できるようにしていく必要がある。</p>
教育学研究科	<p>e-annual report のデータより分析した結果、学部と比してもやや満足度は低めである。院生の意識としてストレートマスターにおいては学部での学びに加え高いレベルの実践的指導力の獲得が目標であり、また現職院生においては現任校における課題への対応というより高度に現実的な目標があり、それぞれ予め設定する目標の高さゆえの回答（満足度が低い）の可能性はある。</p>
経済学研究科	<p>回答数が少ないため、分析・コメントには限界があることは前提であるが、以下のように解釈できる。</p> <p>「満足」が100%であった。和歌山大学での教育内容について回答している者は満足していることがわかった。</p>
システム工学研究科	<p>アンケートの回答率が低いので、満足度の割合だけでは分析するのが難しい。</p> <p>満足度が86.2%であり、学部と比べると満足度が向上している。</p>
観光学研究科	<p>回答者数が少ないため即断することはできないが、教育内容全体に対する満足度は高い水準にあり、今後もこのような評価を維持できるようにしていく必要がある。</p>

▶ 和歌山大学での学びを通して①～⑦の資質や能力が身につきましたか。

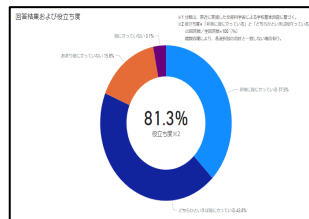
(学士課程)

①幅広い教養や倫理性

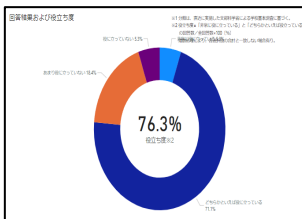
<教育学部>



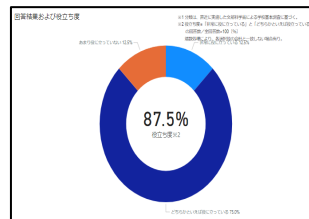
<経済学部>



<システム工学部>

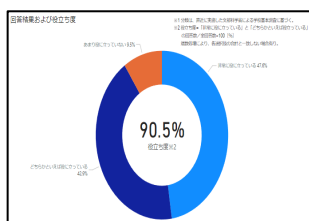


<観光学部>

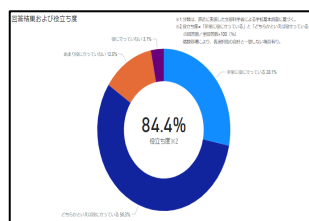


②知識や学力

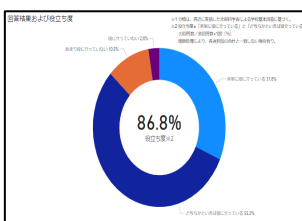
<教育学部>



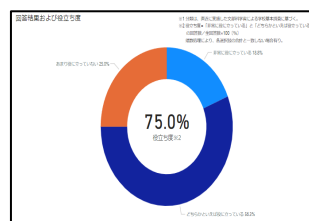
<経済学部>



<システム工学部>

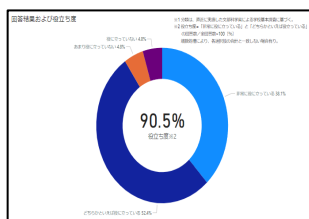


<観光学部>

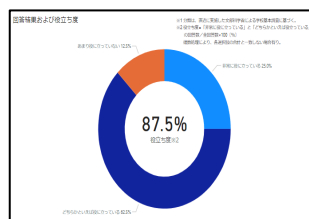


③主体性

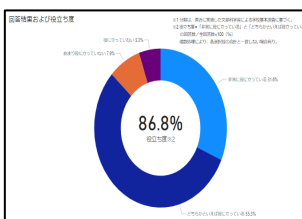
<教育学部>



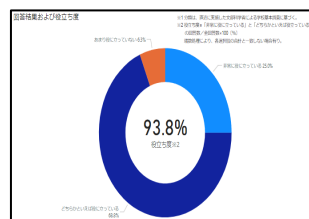
<経済学部>



<システム工学部>

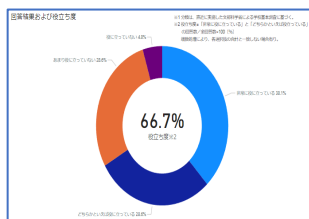


<観光学部>

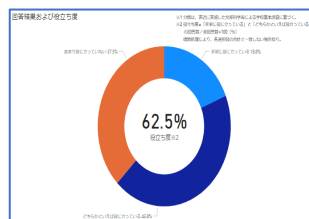


④創造力

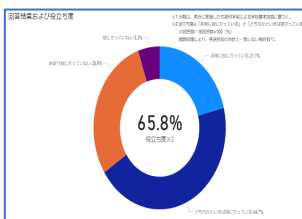
<教育学部>



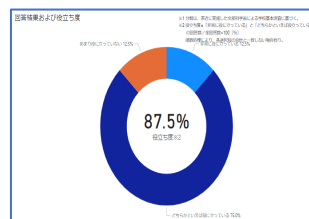
<経済学部>



<システム工学部>

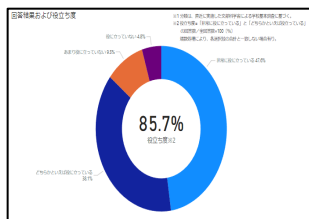


<観光学部>

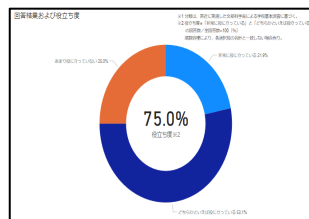


⑤実践力

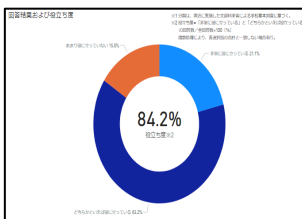
<教育学部>



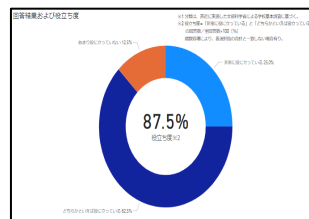
<経済学部>



<システム工学部>

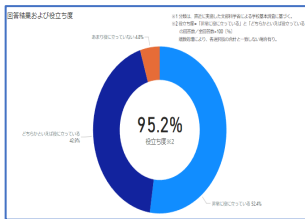


<観光学部>

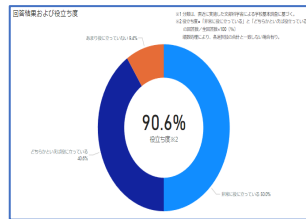


⑥コミュニケーション力

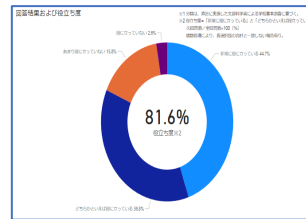
<教育学部>



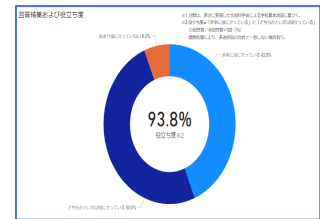
<経済学部>



<システム工学部>

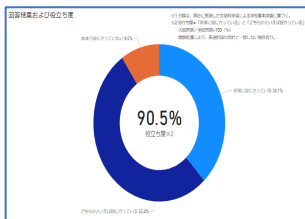


<観光学部>

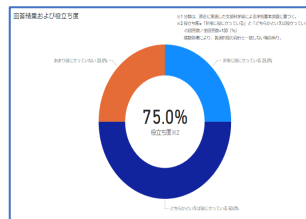


⑦多角的な思考力

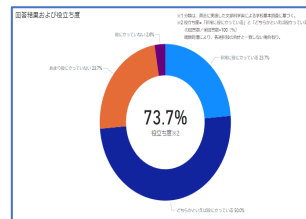
<教育学部>



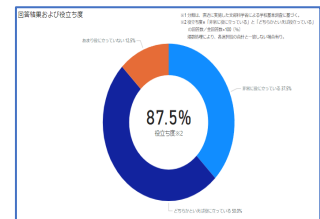
<経済学部>



<システム工学部>

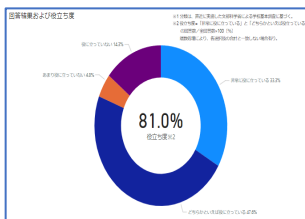


<観光学部>

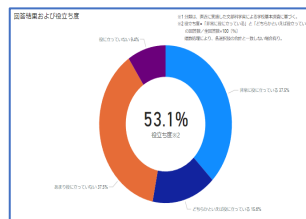


⑧ICT機器の活用能力や情報リテラシー

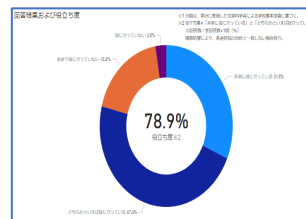
<教育学部>



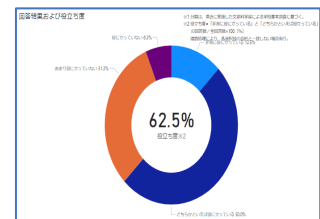
<経済学部>



<システム工学部>



<観光学部>



(修士・博士課程)

①高度な専門知識を獲得し、それを深める力

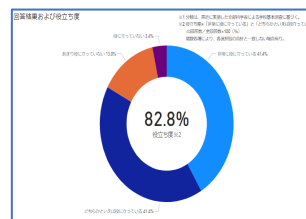
<教育学研究科>



<経済学研究科>



<システム工学研究科>



<観光学研究科>

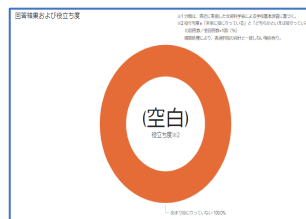


②高い人権意識や倫理観

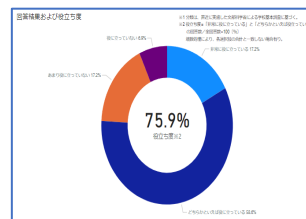
<教育学研究科>



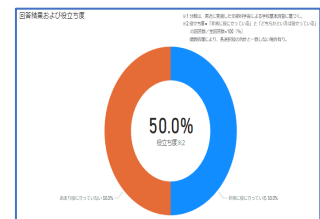
<経済学研究科>



<システム工学研究科>



<観光学研究科>



③課題解決能力

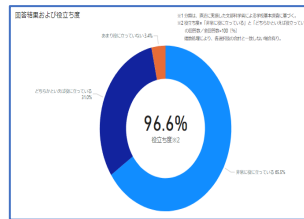
<教育学研究科>



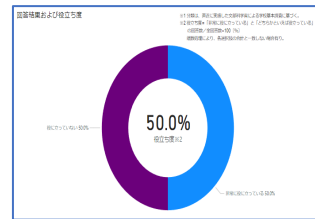
<経済学研究科>



<システム工学研究科>

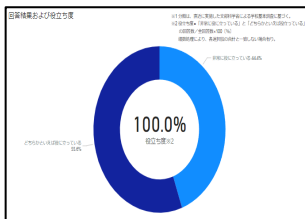


<観光学研究科>

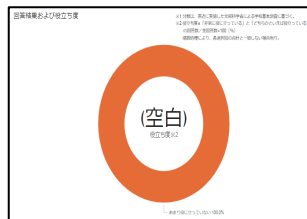


④リーダーシップを発揮する力

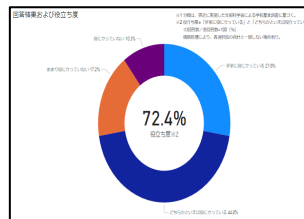
<教育学研究科>



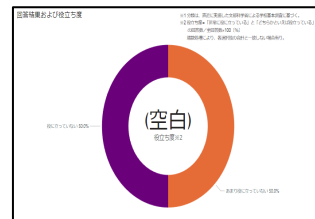
<経済学研究科>



<システム工学研究科>



<観光学研究科>

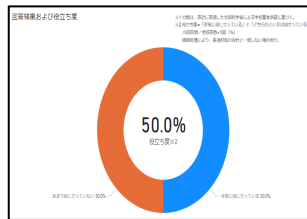


⑤平易かつ論理的に表現し、発信する力

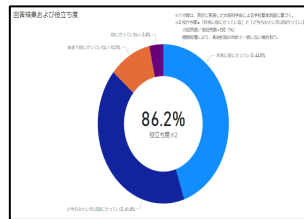
<教育学研究科>



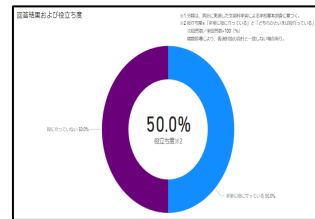
<経済学研究科>



<システム工学研究科>



<観光学研究科>



⑥分析し、改善・応用する力

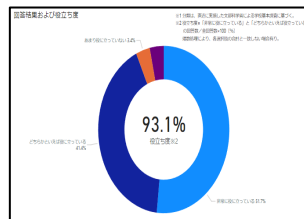
<教育学研究科>



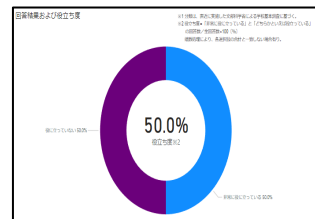
<経済学研究科>



<システム工学研究科>

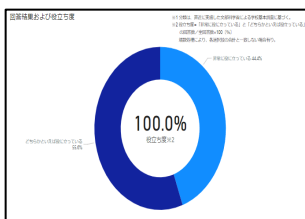


<観光学研究科>

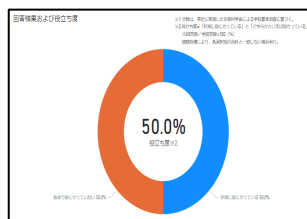


⑦コミュニケーション力

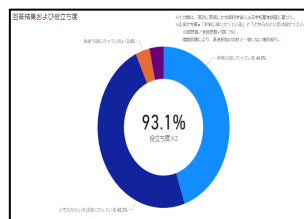
<教育学研究科>



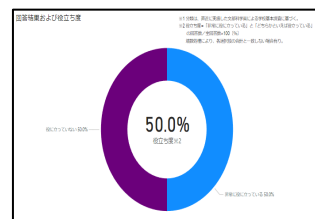
<経済学研究科>



<システム工学研究科>



<観光学研究科>



【分析状況】

創造力を育成する場や機会に課題がある。

多くの企業が卒業生に期待する資質・能力として「主体性」と「コミュニケーション力」がある。これらは、卒業生アンケートによれば「部活動やサークル」で最も育成されている。「部活動やサークル」以外の活動、例えば授業や研究室・ゼミナール等において、どのようにそれらを育成していくのかが課題となる。

<各学部等からの分析結果>

学部／研究科	分析コメント
教育学部	<p>e-annual report のデータより分析した結果、幅広い教養や倫理性、知識や学力、主体性、実践力、コミュニケーション力、多角的な思考力及び ICT 機器の活用能力や情報リテラシーにおいては満足度が高い一方、創造力の点で少し低い傾向が見られる。これは教員免許取得に向けたカリキュラム（科目）であることが関係しているものと推測される。</p>
経済学部	<p>サンプルサイズが小さいため、分析・コメントには限界があることは前提であるが、以下のような解釈ができる。</p> <p>「非常に役に立っている」と「どちらかといえば役に立っている」を合わせた回答割合の上位3つが「コミュニケーション力」（90.6%）、「主体性」（87.5%）、「知識や学力」（84.4%）であった。専門的知識を基礎にアクティブ・ラーニング型の講義を通じて、主体的に対話する能力が修得されたと考えられる。</p>
システム工学部	<p>創造力を養うような工夫が必要であると考えられる（65.8%）が、学部では基礎的な専門知識を修得するための講義が多いことが、満足度の低いことの一因であると考えられる。</p> <p>コミュニケーション力が他学部に比べて低い（81.6%）ので、工夫が必要であると考えられる。</p> <p>ICT 機器の活用能力が意外と低い（78.9%）ので、卒業生が求める活用能力に関するアンケート調査を実施すれば、対策を立てることができるかもしれない。</p>
観光学部	<p>e-annual report より分析した結果、身についた資質・能力が現在の進路で役立つ度合いについては、おおむね高い水準にあると考えられる。「知識・学力」「ICT 機器の活用能力や情報リテラシー」について評価が低めとなる傾向が見られるが、回答した卒業生の進路（業種）によって評価はまちまちである。カリキュラムおよび教育内容の改善により、学生が身につける資質・能力の全体的なレベルアップを図っていく必要がある。</p>

学部／研究科	分析コメント
教育学研究科	<p>e-annual report のデータより分析した結果、すべての資質・能力で満足度が100%である。教職大学院であるため、現職院生の修了生と学部卒院生の修了生が混在している回答ではあるが、どちらの修了生も学修した成果を学校現場で生かしていることが推察される。教職大学院では学校現場や教育委員会と連携した事業や業務も多く、修了生が県内の各現場で活躍している情報も入っている。今回の調査結果はそれらの情報を裏付けているとも考えられる。</p>
経済学研究科	<p>サンプルサイズが極めて小さいため、分析・コメントには限界があることは前提であるが、以下のような解釈ができる。</p> <p>「非常に役に立っている」と「どちらかといえば役に立っている」を合わせた回答割合の上位3つが「高度な専門知識を獲得し、それを深める力」、「課題解決能力」、「分析し、改善・応用する力」であった（いずれも100%）。高度な学術的知識とデータ分析スキルを駆使して、社会・経済における課題解決に結びついていると考えられる。</p>
システム工学研究科	<p>リーダーシップ力が72.4%と低水準であり、改善のための工夫が必要であると考えられる。一方で、コミュニケーション力は学部との比較で93.1%と高く、これは「システム工学講究」の効果が反映されている可能性がある。</p>
観光学研究科	<p>回答者数が極端に少なくまた回答者の進路（業種）も偏っているため、回答結果を評価することは困難である。それでも、「高度な専門知識を獲得し、それを深める力」については現在の進路で役立ったという評価がされており、大学院教育の一定の目的は達成できていると考えられる。今後は、カリキュラムおよび教育内容の改善により、学生が身につける資質・能力の全体的なレベルアップを図っていく必要がある。</p>

4-5 卒業生に対する期待

学位プログラムを通じて身に付ける資質・能力が、企業のご担当者様から本学卒業生にどのような資質や能力を期待するかを合同企業説明会参加企業にアンケートを実施しています。

令和4年度に実施したアンケートの概要については、以下のとおりです。

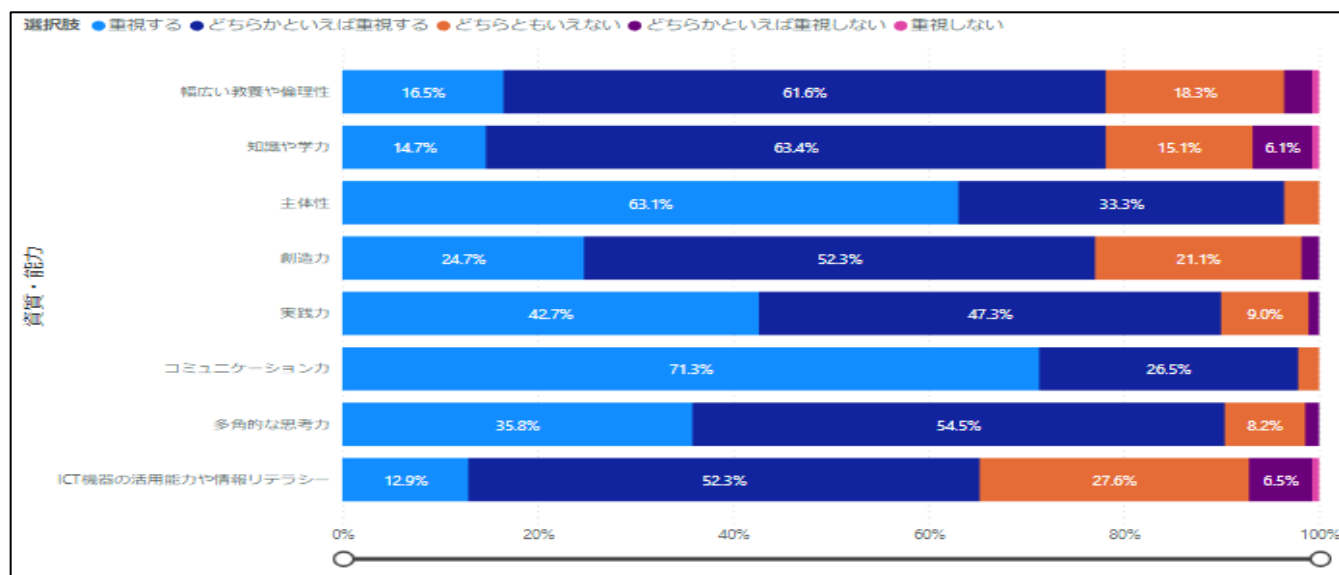
アンケート対象：合同企業説明会参加企業

実施期間：令和5年2月13日～3月31日

実施方法：Microsoft Forms のアンケート機能による実施

回答率：280社（うち、本学卒業生が在籍している企業86.8%）

▶ 和歌山大学生の採用に当たって、資質や能力をどの程度重視されているかについて



▶ 今後、和歌山大学ではどのような力を育成する教育の充実が望ましいかについて

